

平成 25 年度卒業論文
カカオ産業における農家を取り巻く貧困に関する一考察
—ガーナとコートジボワールを事例に— 要約

09h2074 中嶋理佳子

本論は、カカオ産業における農家の貧困の原因を明らかにし、その改善策を考察することを目的とする。そのため、カカオ産業を構築する各アクターが価値を多く得ようとする事、そしてそれを可能とするようなアクター間に偏在するパワーが主な原因としてカカオ農家の貧困が引き起こされていることを、国際価値連鎖論の視座より検証する。

まず序章において、近年カカオ産業の中の問題へ注目が集まっていることに言及する。次に第一章で、本論の問題意識の中心にある貧困の定義として、絶対的貧困と相対的貧困を提示したのち、二つの定義が事例国に当てはまることを証明する。続いて、本論における事例国のガーナとコートジボワール両国に焦点を当て、カカオの生産量の多さやカカオ豆の生産者が受け取る価格、国内におけるカカオ産業の重要性などに焦点を当てながら事例国として適切だということを提示する。また、国際価値連鎖論のレビューを行い、途上国へ利益をもたらすことを目的としている点や、アップグレード概念などが本論の分析枠組みとして用いることに妥当だということを証明する。

第二章の最初に、カカオの国際市場価格そのものと価格の形成要因に着目し、変動が多い価格やその中の農家の取り分の少なさ、そして価格設定に影響を与えるアクターがカカオ農家の貧困に関係していることを提示する。また、カカオの生産地と加工地の特徴にも焦点を当て、それらが途上国と先進国に大別できることを示す。続いて、チョコレートの製造過程における価値の偏在状態に貧困の要因を探り、また、製造過程での付加価値化の困難さが貧困改善を困難にしていることを検証する。

第三章では、ガーナを事例にカカオ農家が陥っている貧困の国内要因を検討する。最初に植民地時代から独立期、現代までの歴史を概観し、歴史的に旧宗主国側である先進国に価値が流出する構造になっていることを示す。次いで国内カカオ流通システムに焦点を当て、流通の段階における価値の流出によって、国内においても農家から政府に価値が移動していることを明示する。

第四章では、コートジボワールを事例として貧困の原因を検証する。前章と同様に歴史的要因、システムの要因に焦点を当て検討を行い、先進国に価値が移動する構造やカカオ農家から政府に財が流れるシステム、そして流通の各段階で生じるマージン料が貧困の要因として提示される。

続く第五章では、第四章までに提示したカカオ農家が陥る貧困の要因への対策を国際組織、国家、NGO や企業といった民間の三つのレベル毎に焦点を当て、その有効性をアップグレードに該当するか否かを鑑みながら検討する。各レベルの対策にはアップグレードに該当するものとし、しないものの両方が確認できたが、同時にここで、アップグレードに当た

る策が貧困対策として必ずしも有効ではないということを示す。最後に第六章で本論全体のまとめと考察を行い、結論を提示する。